

童

2010.7、21

ようやく、梅雨が明けて、ひぐらしが鳴く夏がやってきました。久しぶりに雨が続く梅雨らしい梅雨でした。でも不思議なことに、ほとんど、昼間は外で過ごし、雨で出られないということは無かったように思えます。まあ、雨でも関係なく（むしろ、魅力的な雨の日ですが）、日頃遊んでいるせいもありますが。

この雨のお陰で、大地脇の畑の作物も豊かに成長しています。子ども達の足音と水くれ、草取り等のお世話の結果、きゅうりなどは、連日、子ども達を楽しませてくれます。

さて、1学期も終わり、まもなく夏休みです。子どもとじっくり向き合い、リズムカルな生活を送る中で、ぜひ幼児の育ちの特徴（6つの幼児期の特徴）を観察し、感じてみて下さい。幼児は、観光したり特別な場所に連れて行くことよりも、毎日同じ場所で、同じリズムと流れで暮らす事が、安心して遊びが発展します。想像力がつきます。そして、たまに、非日常的な行事や旅行などが、強烈な楽しみとなるわけです。

それには、大人が幼児の淡々とした日常に、子どもと暮らす弱い刺激に、共に、付き合える、楽しめるかが、課題となります。子どもと普通に暮らす楽しみを感じながら、良い夏休みをお過ごし下さい。



【ご飯を食べる】

世界放浪中の息子は、3ヶ月のアメリカホームステイでの語学訓練や安心した環境での生活を終えて、いよいよ、カナダに移動したらしい。30キロ近いバックパッキングで、バスを乗り継いでいるらしい。いよいよ、待望の旅がはじまったが、親の心配をよそに、前だけを向いてエネルギーに進んでいる。

この3ヶ月間、様々な出会いと大人達の生き方に触れたらしい。私の友人である今回のホームステイを世話してくれた、日本の某大手ビールメーカーのアメリカ法人の元社長から、国際社会やその過ごし方、そして、思いやりなどを、厳しく指導を受けたらしい。

そして、何よりもうれしいのは、今から約20年前に、毎年1ヶ月間、ホームステイの学生を大で受け入れていた（当時、息子3歳）その時の学生2名が、アメリカで、息子と出会い、色々面倒を見てくれた事である。ニューヨークからわざわざロスまで来てくれたり、家に招待してくれて当時、私たちがしたように、サイクリングに連れて行ってくれたりして、何か、世界の狭さ、不思議な気持ちを感じた。

また、小さい頃から大地の野外教室に来て、長男と遊んだ、ちょっと上の子ども達も、カナダなどに住んでおり、ここを拠点に、旅をするらしい。

全てが、人の縁、小さい頃から、様々な人達と共に一緒に暮らしてきた事が、今になり生かされているように思う。

「人は、仲がいいから一緒にご飯を食べるのではなく、ご飯を一緒に食べるから、仲が良くなる」

沢山の人間に胸襟を開き、そして、共にご飯を一緒に作って食べ（ご飯が一番、一緒に何か作る身近で楽しいことである）、暮らしの1部を共有することは、次世代の子ども達に大きな教育と財産になることを実感している。でも、当時は、そんな将来に対する計算高い予測や思いなどはなく、大人自身が共に汗を流し（流汗悟道）、一緒に何か挑戦する事が、互いに分かり合え、楽しい事であった。

また、子ども達自身、春や夏、冬の野外教室でのキャンプでも、年齢を超えた子ども達と一緒に暮らした事、1回だけの出会いでなく、ある程度継続的に暮らせた事、学校の友達以外の友人を得てきたことも、大人になった今、大きな財産となっている。

学校教育では、机上の学びが多いが、やはり、小中時代は、何かを一緒に作り上げる、それも、時間をかけて、喧嘩したり悩んだり相談したりして、汗を流して暮らす体験が、仲が良くなる機会だと思う。

自分の4人の子ども達においても、小中学校では、登山などは、下の子どもにいくほど、廃止され、良くてパンガロー、悪くて、青年の家っぽいロッジになってしまった。驚くことに、カレー作りなども、事前に練習して、当日スムーズにいけるようにしておくことには卒倒しそうになった。まさに、全て、将来に備える姿勢、失敗しないために、何でも先にやっておく、今を生きる子ども達の特権を奪い、将来の安心だけのために、事前練習だけをしていく人生のような気がする。

わいわい悩み、失敗して、相談して、喧嘩したりしながら、作り上げた学園祭などを体験したり、登山で雨に打たれてどうしようと判断に迷ったり、最近では **歴史的な豪雨のなかで、歴史的な夕涼み会を最後まで楽しんだ事などは、** 大きな思い出とともに、一体感やお互いの共通理解を得て、充足感を感じる事が出来る。

これからの時代、子ども達にプレゼントできる大きな教育は、知識の機会や将来の備えを与える事よりも、大人自身が、胸襟を開き、自分たちの暮らしを自分で引き受けることを基本に、共に何かを作ることに子ども達と共に、真剣に取り組む機会や、子ども達自身が汗を流し、他人とご飯を食べることが、最大の要素だと確信している。